

基督教学研究

第 19 号

論文

キリスト教古代の女性殉教者再考(一) …………… 佐藤吉昭 …… 一

第一次ユダヤ戦争に見るフィロカイサルたちとその系譜 …… 秦 剛平 …… 五

アフラハトにおける神の下降と人間の上昇 …………… 武藤慎一 …… 一〇

——解釈学的観点から——

ササン朝ペルシアにおけるキリスト教徒迫害と

『エデッサ殉教者伝集』 …………… 竹田文彦 …… 一五

研究ノート

『エレミヤの告白』における呪いの言葉をめぐって …………… 大石祐一 …… 八

知恵の人格性と一人称表現

——箴言8章12節「私は知恵」の理解—— …………… 金井由嗣 …… 一三

ヒック宗教的多元論の科学的構造 …………… 小倉和一 …… 一六

彙報

彙報

Theology vol. 2, 1957

勝村弘也 講師 語学 「ハブライ語文法とエステル記の講読」

一九九八年度キリスト教学専修講義題目

片柳栄一 教授 講義 「キリスト教学概論」

特殊講義 「有りて有る者」をめぐって」

演習 「Augustinus: De utilitate credendi」

芦名定道 助教授 特殊講義 「宗教学語論から聖書の信仰論へ」

特殊講義 「キリスト教思想研究入門」

演習 「F. Schleiermacher, Der christliche Glaube, 1830/31」

片柳栄一 教授・芦名定道 助教授

演習 「キリスト教学の諸問題」

宮庄哲夫 講師 演習 「ルターの Sozialethik と関連して (Von weltlicher Obrigkeit, wie weit man ihr Gehorsam schuldig sei. 1523)」

「Evangeliium secundum Marcum」

竹田文彦 講師 講読 「Paul Tillich, Systematic

今井尚生 講師 講読 「Paul Tillich, Systematic

一九九八年度論文題目

卒業論文

佐藤啓介 「ポール・リクールにおける聖書解釈学」

修士論文

小倉和一 「ジョン・ヒックの宗教的多元論」

第一号目次

終末論の二類型 武藤 一雄
キリスト論の視点 森田 雄三郎
初期アウグスティヌスの人間学 金子 晴勇
Lumen Christi 佐藤 吉昭
ルターの "Ordkreit" に関する一考察 早乙女 禮子
ルターにおける信仰と礼典 竹原 創一
バルト「ローマ人への手紙」における神認識 村山 周治

第三号目次

キルケゴール研究の方法について 小川 圭治
エイレナイオスと聖書 菊地 栄三
テイリッヒの芸術神学について 田辺 明子
絶対の相の下に 片柳 栄一
ルターの律法理解 宮庄 夫
聖書へブル語統辞論のテキスト言語学的考察 勝村 弘也

第二号目次

オリゲネスの「キリスト教理解」 水垣 渉
ゲッセマネ 大島 征二
神学における言葉の問題 竹原 創一
アウグスティヌスにおけるキリストの人性について 小池 三郎
ギリシア語旧約聖書における *raisa* について 伊藤 利行
エルンスト・トレルチにおける "Kompromis" の概念 安酸 敏真
シェリングに於ける「世界経験」について 森 哲郎
ルターにおける「外」と「内」についての一考察 片柳 俊子

第四号目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」といえるか 今井 晋
キプリアヌスの教会理解 佐藤 吉昭
ノビリの印度伝道 塩谷 悟
テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争 高野 晃
フィロンとキリスト教 平石 善司
ルターの抵抗権思想における服従の問題 早乙女 禮子
創世記テキストにおける語りの技法 勝村 弘也
シェリングに於ける神話と世界 森 哲郎
ヘクサプラ断片の残存率について 伊藤 利行

第五号目次

解釈学的教義学の構成について	森田雄三郎
内村鑑三と「身体の救い」	原島正
言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト	勝村弘也
エルンスト・トレルチにおける	
「歴史の神学」の構想	安酸敏真
教義学的思考における解釈学的循環の問題	掛川富康

第六号(武藤一雄名誉教授古希記念特別号) 目次

神学的宗教哲学について	武藤一雄
アレクサンドリアのフィロンにおける	
能動と受動の問題	水垣征二
奇蹟物語へのマジジナリア	大島征二
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論への	
新約聖書学的批判	田辺明子
ヨセフスのモーセ物語について	秦剛平
エイレナイオスの人間理解	菊地栄三
キプリアヌスの『棄教者論』考察	佐藤吉昭
アウグスティヌスの時間論	片藤栄一
ルターにおける「アフェクトゥス」の問題	今井晋
ルターとアウグスティヌス	金子晴勇

第七号目次

神学的構造主義の問題	森田雄三郎
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と	
パリア民族の概念	高野晃兆
浄土系仏教とキリスト教の救済論の	
一異に関する考察	原田博充
日本の伝統的宗教的心情とキリスト教との	
関連について	名木田薫
ウイリアム・ケアリの伝道に対する貢献	塩谷悟
神概念の転換	小川圭治

第八号目次

ルターと神学的決定論	金子晴勇
Inago Daiとしての精神の自覚の三一的構造	片柳栄一
脚下照顧	武藤一雄
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と	
カスパリの批判(一九二二)	高野晃兆
パウル・ティリッヒと象徴の問題	芦名定道
キリスト教概念の成立(その一)	水垣渉
アルベルト・シュヴァイツァーの「イエス神秘主義」	笠井恵二

シェリング『自由論』再考(一) 森 哲郎
ルターにおける職業観の問題 早乙女 禮子

キェルケゴール『死に至る病』の「キリスト教的理解」 信岡 茂浩

第九号目次

第十一号目次

西田幾多郎とキリスト教 小川 圭治
R・ブルトマンにとってのイエスの意義に関して 名木田 薫

創造と進化——創造における無—— 森田 雄三郎
ルターとカールシュタット(一) 宮庄 哲夫
神言表の可能性とその八言述的V「合理化」の問題 掛川 富康

旧約物語テキストにおけるヒンネー(見よ)の機能 勝村 弘也

ヘブライズムとギリシア語聖書 伊藤 利行

シェリング『自由論』再考(二) 森 哲郎

エラスムスの「敬虔」概念の倫理的基礎 畑 宏枝

P・テイリツヒの時間論 芦名 定道
キェルケゴールの「自己の定義」について 山本 忠義

第十二号目次

第十号目次

ルターにおける「体験」の問題——一つの覚書—— 今井 晋

神探求の場の開示 片柳 栄一
二つの歴史的社会的イエス研究について 大島 征二
「思い煩う」(ルカ二・二二—二三)について 田辺 明子

シュタウピッツとルターの神秘思想 金子 晴勇

レッシングの神学思想——序説—— 安酸 敏真

ルターとカールシュタット(一) 宮庄 哲夫

自由意志論争におけるエラスムスとルター 畑 宏枝
アントニオスの修道 竹田 文彦

ルターにおける試練について 竹原 創一
神学主義と宗教主義 武藤 一雄
オリゲネス『原理論』に於ける悪の問題序論 久山 道彦

第十三号目次

内村鑑三における「内と外」の論理	原島正
キリスト教倫理の源泉	名木田薫
七十人訳翻訳史序説(一)	秦剛平
隠喩と神学的実在論	芦名定道
ニュッサのグレゴリオスの	
「鏡における神認識」の存否	土井健司
オリゲネスにおける神のエネルギー	松丸健太

第十四号目次

キルケゴールにおける \wedge 論理的問題 \vee	林忠良
罪の自覚——その人間学的考察(一)	内村公義
モルトマンの歴史理解	
——希望の神学と現代世界の問題	笠井恵二
探究する聖霊——初期オリゲネスにおける	
解釈学的原理	久山道彦
ニュッサのグレゴリオスにおける	
「鏡」の概念について	土井健司
クリュヌストモスの解釈学——神理解の	
可能性と不可能性の問題を巡って	武藤慎一
伊藤邦幸氏の逝去を悼む	高野晃兆

第十五号目次

罪をおかすことによって罪から救贖できる？	
——ユダヤ神秘主義の失敗からの警告——	
ブルトマンと聖書	森田雄二郎
アウグスチヌスの恩寵論	笠井恵二
ニシビスのエフライムの解釈学	伊藤邦幸
P・テイリッヒにおける「カイロス」と認識	武藤慎一
の形而上学——歴史相対主義の克服	
を巡って——	今井尚生

第十六号(故武藤一雄名誉教授追悼号)目次

『コヘレトの言葉』の構造と思想	
——一人称表現の用法をめぐって——	金井由嗣
神・愛・場所——ブーバーから武藤への	
接近の一つの試み——	水垣涉
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論に	
おける問題設定	田辺明子
殉教者カルタゴ司教キプリアヌスの古代殉教	
観の軌跡	佐藤吉昭

古代教会におけるキリスト教経済思想の形成

——トレルチ「社会学説」研究ノート——

二つの恩恵 ——アウグスティヌス「譴責と

恩恵」十一—十二章

ルターのキリスト神秘主義

言葉と経験 ——ルターとディオニシウスの

かかわり——

若きレッシングの宗教思想

キリスト教の自然理解について——序章——

神の愚かさと人間の賢さ

キリスト教の終末論における将来的なものと

現在のなもの

「キリスト教と仏教」に関する若干の考察

モルトマンの聖書理解

M・ブーバーとハンディズム

Wie wird man seiner Hingeburt gewis?

——Eine Untersuchung zum Reinen Land

Buddhismus der Heian und Kamakura Zeit

第十七号目次

ルターの神観における神秘的なるもの	金子晴勇
ルターの詩編解釈における語り手の問題	竹原創一

エラスムスにおける『反野蠻人論』と

ヒューマニズム

『ベルシアの賢者』アフラハトの解釈学

ティリッヒ『教義学』における歴史の問題

……

……

第十八号(水垣涉名誉教授退官記念号) 目次

応報か、行為・帰趨連関か?

聖書における沈黙について

生成の論理と存在の論理——古代キリスト教

思想の解釈への一試論——

クリュノストモスにおける神の下降と人間の

上昇——解釈学的観点から——

この世界への、この世界からの脱出——ハン

ナ・アーレントのアウグスティヌス解釈

エラスムス『現世の軽蔑』に関する一考察

——その執筆動機と思想——

ルターの詩編解釈における悔い改めと沈黙

——第四編五節の「悔い改めなご」

(PscG)と「沈黙しなご」(Psh)の

解釈をめぐる——

レッシングにおける真理探究の問題

……	畑宏枝
……	武藤慎一
……	今井尚生
……	勝村弘也
……	伊藤利行
……	土井健司
……	武藤慎一
……	片柳栄一
……	畑宏枝
……	竹原創一
……	安酸敏真

キェルケゴールの「罪」理解——『死に至る病』を手掛かりに——	山本忠義
価値および意味と宗教の問題——トレルチおよびテューリッヒの思想を手掛かりとして——	今井尚生
現代キリスト教思想における終末論の可能性	金 芦 名
明治キリスト教と朝鮮人李樹廷	金 文 吉
“Häthologia” als die wissenschaftliche Konzeption Tetsutaro Arigas — Zum Problem der Interpretation von Ex. 3, 14ff. als theologisch-hermeneutischer Methode für die Theologiegeschichte	
オリゲネス『原理論』における本性と被造性	久 掛 山 川 道 彦

執筆者

佐藤吉昭

京都産業大学名誉教授

秦剛平

多摩美術大学教授

武藤慎一

大阪府立工業高等専門学校専任講師

竹田文彦

英知大学助教授

金井由嗣

京都大学大学院文学研究科後期課程在学中

大石祐一

”

小倉和一

”

京都大学基督教学会規約

- 一、本会は京都大学基督教学会と称し、事務局を京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科キリスト教学研究室に置く。
- 二、本会は基督教学研究の進展を目的とする。
- 三、本会は前条の目的を達成するために以下の事業を行う。
 - (一) 研究発表会、講演会などの開催。
 - (二) 学会誌『基督教学研究』の発行。
 - (三) 内外の研究機関及び研究者との相互交流。
 - (四) その他の必要な事業。
- 四、本会は基督教学研究に従事する者、もしくは本会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。入会は委員会の承認による。
- 五、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。
会員は年会費五千円を納めるものとする。会員のうち年額一口五千円を二口以上納めるものを維持会員とする。
- 六、本会の運営のために次の委員を置く。
 - (一) 代表者 (一名)
 - (二) 委員 (若干名)
 - (三) 監事 (一名)

代表者、委員、監事は会員の間から選出し、任期を二年とし、再選を妨げない。

七、本会は毎年総会を開き、会計及び一般報告を行い、必要事項を協議する。

八、本規約は委員会の発議に基づき、総会において変更することができ。

(本規約は一九九八年二月から施行する)

代表者.. 小池三郎

委員.. 高野晃兆、林 忠良、片柳栄一、宮庄哲夫、

勝村弘也、芦名定道、武藤慎一

監事.. 水垣 渉

第十九号編集実務委員会

小池三郎
高野晃兆
林野忠良
片柳栄一
宮庄哲夫
勝村弘也
芦名定道
武藤慎一

一九九九年十二月二十日印刷
一九九九年十二月三十日発行

定価一五〇〇円(十税)

発行者

京都大学基督教学会
京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科
キリスト教学研究室内

発行人

小池三郎

発売元

(株)大阪キリスト教書店
大阪市北区曾根崎新地丁一五

印刷所

シャローム工房

本誌の御註文は、最寄のキリスト教書店、もしくは、右記、京都大学基督教学会(振替〇〇三〇三〇一五七七二〇七七)へ、送料とも一七二〇円(本体価格一五〇〇円、送料二一〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES

KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 19

December, 1999

Contents

Rethinking of the Women among Early Christian Martyrs . . . Yosiaki Sato

*Figures of Philo-Caesar during the first Jewish war
against the Romans and their pedigree* Gohei Hata

*Divine Descent and Human Ascent in Aphrahat:
Seen from the Hermeneutical Point of View* Shinichi Muto

*The Persecution of Christians in the Sasanian Empire
and "The Literary Cycle of the Edessan Martyrs"* . . Humihiko Takeda

On the curse in the 'Confessions of Jeremiah' Yuichi Oishi

*Wisdom as Person and the Usage of Its First-person Impressions
—Understanding of Proverb 8:12 "I, wisdom"* Yoshitsugu Kanai

Scientific Methodology in Hick's Religious Pluralism Waichi Ogura

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan